



NHO Shibukawa Medical Center

ウイズ

— No.82 —

平成 28 年 4 月 (2016 年)

編集発行

独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター

電話 0279-23-1010
FAX 0279-23-1011

E-mail: shibukawamc@hosp.go.jp
http://www.hosp.go.jp/~shibukawamc/

渋川医療センター

開院特集号



群馬県の地域医療再生計画に基づき、国立病院機構西群馬病院と渋川市立渋川総合病院は統合し、平成28年4月1日国立病院機構渋川医療センターとして発足いたしました。
どうぞよろしくお願い致します。 (この写真は3月12日一般内覧会の後に撮影したものです。)

目次

- 渋川医療センターの理念 1
- 開院ご挨拶 3
- 渋川医療センターについて教えて 6
- 各部門の紹介 14
- 渋川医療センターの利用方法について 25
- 外来診療担当医表 29



基本理念

北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします。

基本方針

1. 患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します。
2. 十分な情報を提供し、共に考える医療を行います。
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します。
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児（者）の専門病院として社会に貢献します。
5. 地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します。
6. 災害拠点病院として、災害時の傷病者の受け入れ、医療救護班（DMAT）の派遣を行います。
7. 教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します。
8. 良質な医療を継続的に確保するため、健全な経営と適正な運営に努めます。

看護の理念

患者さんの立場に立ち、心あたたかく、信頼に応える看護を提供します。

看護の基本方針

1. 患者さんの気持ちを大切に、思いやりとまごころ込めた看護を提供します。
2. 患者さんと共に考える看護の実践により患者さんが自ら意思決定が行えるよう支援します。
3. 地域の人々と連携を図ることで患者さんの生活の質の維持向上に努めます。
4. 患者さんの尊厳と権利を尊重した質の高い看護を提供します。
5. 看護の専門性を追求し、根拠に基づいた安全で安心な看護を提供します。

患者さんの権利

1. 最善の医療サービスを受ける権利
2. 人格・人権を尊重される権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーを保護される権利



開院ご挨拶



独立行政法人国立病院機構
渋川医療センター 院長 齋藤 龍生

国立病院機構渋川医療センターは、群馬県地域医療再生計画に基づき国立病院機構西群馬病院と渋川市立渋川総合病院が統合し、北毛地域の基幹病院として平成28年4月に開院致しました。渋川医療センターの名称には両病院のスタッフが力を合わせて渋川市の医療を担うという決意と、渋川市民の病院としてひろく認識して欲しいという想いが込められています。

渋川医療センターは、県内を貫く大動脈国道17号線沿いに、地上7階地下1階建て免震構造で建設され、病床数は450床、災害拠点病院としてのヘリポートを備えております。

当センターは、西群馬病院が有していた政策医療としての地域がん診療連携拠点病院、緩和ケア医療、呼吸器疾患専門医療、結核拠点病院、重症心身障害児（者）医療、エイズ治療拠点病院、肝疾患専門医療機関および地域支援病院としての診療機能に加え、渋川総合病院が有していた救急告示病院、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関としての診療機能を継承しました。新たに総合診療科、内分泌・代謝内科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線診断科が加わり、より診療内容が充実致しました。

渋川医療センターに整備された高精度放射線治療装置、核磁気共鳴断層装置（3.0テスラMRI）、超音波気管支鏡（EBUS）、バーチャル気管支鏡ナビゲーション、自家造血幹細胞移植、緩和ケア病棟、高画質と低被曝を両立させた新型血管造影X線診断装置、ステレオバイオプシー用ガイドシステムを有する乳房撮影装置、MRI-TRUS、融合画像ガイド下前立腺狙撃生検装置、大型紫外線照射器（皮膚科）は北毛地区唯一のものです。更に県内に数少ない日本内視鏡外科学会技術認定取得者2名が加わり、高いレベルでの消化器内視鏡手術が可能となりました。

また新たに設置された患者相談支援センターには、地域医療連携室・入退院センター・医療福祉相談室が整備されており、「患者さんに寄り添った医療、十分な情報提供」を推進して参りますので、ご支援の程よろしく申し上げます。



独立行政法人国立病院機構

渋川医療センター 特任院長補佐 **横江 隆夫**

(救急医療担当、臨床研修教育担当)

群馬県地域医療再生計画の一翼を担い、国立病院機構西群馬病院と渋川市立渋川総合病院が統合され、平成28年4月から国立病院機構渋川医療センターとして新たに診療を開始しました。今日に至るまで、国や群馬県、渋川市などの多くの関係者の方々のご尽力ご支援を頂いたことに大変感謝申し上げます。

新病院は、両病院が担ってきた地域がん診療拠点病院、緩和ケア医療、呼吸器疾患専門医療、結核拠点病院、重症心身障害児（者）医療、エイズ拠点病院、肝疾患専門医療機関、救急告示病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関の機能を持ち、最新のIMRT（強度変調放射線治療）装置、診断装置、救急搬送用のヘリポートなどを装備しています。また、今までの両院の診療科に加え、新たに総合診療科、内分泌・代謝内科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線診断科などの診療科が加わり受診者の利便性が増しました。これまでと同様に、地域および近隣の医療施設や介護施設と連携し、在宅医療、地域包括ケアシステムが有効に働くよう支援します。

臨床研修指定病院（基幹型）として研修医の教育を行い、さらには内科、外科、救急科などの専門医研修連携施設として専門医を育てる役割を担います。将来は地域に医師を派遣することも目指しています。

北毛地域の拠点病院のひとつとして地域のみなさま、ならびに県民のみなさまの健康と命を守れるよう職員一同頑張っていく所存ですので、これからのご支援をよろしくお願い申し上げます。

開院ご挨拶



独立行政法人国立病院機構

渋川医療センター 副院長 **蒔田 富士雄**
(経営・管理担当、医療安全担当、臨床研修教育担当)

渋川医療センターの副院長を拝命しました蒔田です。西群馬病院では副院長が1人であったため、各分野の担当を行わねばならずなかなか大変な思いでしたが、新病院では3人の副院長体制となり、私は経営・管理担当、医療安全担当、臨床研修教育担当になりました。そこで新病院が北毛地域の基幹病院としての機能を果たしていくために、考えられるすべての面で必要なことを実践していく所存です。医療安全では、患者さんに安全で安心な医療を提供できるように病院全体で取り組んでいきます。臨床研修教育では、臨床研修指定病院（基幹型）、専門医研修連携施設として人材育成に力を入れ、また地域医療従事者には研修会、地域住民には公開講座など最新の医療情報提供を行なえる機会を設けていきたいと考えています。いずれにしても職員、スタッフは勿論、医師会、地域医療機関等のご協力を得なければできないことと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。



独立行政法人国立病院機構

渋川医療センター 特命副院長 **棚橋 美文**
(経営・管理担当、患者支援担当)

『北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします』の理念のもと、平成28年4月1日渋川医療センターが開院しました。「その役割」は救急医療を含めた地域医療の拠点病院、がん・呼吸器疾患・重症心身障害児（者）の専門病院、感染症指定病院、災害拠点病院として、患者さん・ご家族に寄り添い、皆様が安心できる医療を提供していくことと考えております。開院に当たり、新しい建物、医療機器の整備、医師を含めたメディカルスタッフの増員が行われました。質の高い医療を提供するためには、すべてのスタッフが正しい知識、技術を確認し、新しい知識、技術を吸収するとともに、やさしい思いやりを持つことが必要です。地域の医療・介護機関との連携を進め、患者さん、ご家族をやさしく支える医療、看護を大切に、病院を作っていきます。地域の皆様のご支援、ご指導何卒よろしくお願いいたします。

渋川医療センターについて教えて

❗. 建物の概要を教えてください。

A. 渋川医療センターは、病院本館（鉄骨造地下1階、地上7階の免震構造）、緩和ケア病棟（鉄筋コンクリート造）、放射線治療棟（鉄筋コンクリート造）及びエネルギー棟（鉄筋コンクリート造）で構成しています。延床面積は33,204㎡、約1万坪です。

病院本館西側には患者さん用駐車場として337台分と障害者用駐車場として4台分（屋根付き）を用意しました。病院職員は本館北側のエリア（312台）に駐車することとしています。

また、災害拠点病院の機能を有することから、職員駐車場東側にヘリポートを整備しています。土地の面積は、40,979㎡、約12,400坪です。

❗. 東日本大震災級の地震でも大丈夫ですか。

A. 安心して下さい。東日本大震災、阪神淡路大震災級の地震（震度7強）でも病院本館に被害は生じません。

渋川市は地盤が良く、ボーリング調査の結果、地表より5.8m～7.1mで「支持層」に達しました。基礎はいわゆる「べた基礎」と呼ばれている工法です。地表より平均7.5m掘削し「支持層」に直接1,530 tもの鉄筋とコンクリートで厚さ2mの基礎を作りました。基礎の上には110個の「免震装置」を設置し病院本館を支えています。

また、送電線は渋川と子持の2系統から引いており、万が一どちらかが断線した場合でも、もう一方の電線により病院で使用する電力をまかなえるようになっております。さらに、両方が断線しても自家発電により緊急時の電力は確保できる設計となっております。



渋川医療センターについて教えて

❗ 渋川医療センターの運営は何処が行うのですか。

A. 独立行政法人国立病院機構が運営します。

国立病院機構は、平成16年に厚生省直轄の旧国立病院・療養所から独立行政法人へと移行しました。以来12年間、国立病院機構グループ全体として黒字決算を計上している世界的にも有数な一大病院グループです。西群馬病院も同様に独立行政法人化以降、黒字を計上している病院でした。

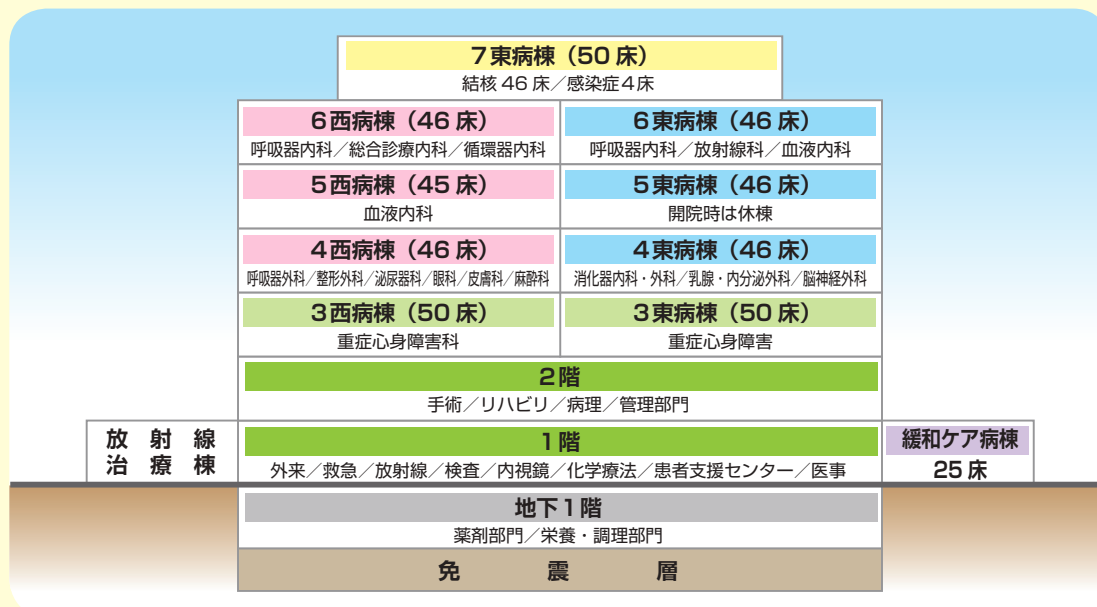
渋川医療センターでは、西群馬病院の経営陣が引き続き運営の中枢に携わると共に、渋川総合病院経営陣のノウハウを加味しつつ、安定した運営に努めていくこととしています。

病院運営により得られた診療業務収益は、医療機器の整備・更新や人材を増員投資いたします。これにより、さらに質の高い医療を提供し、地域の皆さんに還元することが渋川医療センターで勤務する職員の使命です。

赤字経営では、医療の質に再投資できないことから、質の高い医療を提供し続けることが出来ないのです。

❗ 病院本館の各階構成はどのようになっているのですか。

A. 図で説明しましょう。



地下1階は薬剤部門と栄養・調理部門があります。

1階は外来診療スペースとなっており、患者さんは上下階に移動することなく検査、診察、放射線治療、化学療法を終えることが出来ます。

また、緩和ケア病棟を病院本館とは別棟で25床を整備致しました。

2階はリハビリテーション部門と手術室、他に管理部門があります。
3階は重症心身障害児（者）病棟が東西に50床ずつ計100床と療育訓練室があります。
4階から6階は東西にそれぞれ一般病棟があり、内科系と外科系で使い分けています。
なお、5階東病棟は休棟でスタートしますが、28年度中の開棟を予定しております。
7階は結核病棟と第二種感染症病床があります。7階への患者さんの移動は専用のエレベーターを設置しており、一般用のエレベーターと区分しております。

Q. 渋川医療センターの病床数はどうなっていますか。

A. 全部で450床です。

内訳ですが、一般病床が275床、緩和ケア病床が25床、重症心身障害児（者）病床が100床、結核病床が46床、感染症病床が4床となります。

Q. 診療機能はどのようなものがあるのですか。

A. 西群馬病院と渋川総合病院が厚生労働大臣や群馬県等より指定を受けていた診療機能はすべて継承しました。

具体的には、「がん専門病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「緩和医療」、「結核指定医療機関」、「重症心身障害児（者）医療」、「エイズ治療拠点病院」、「肝疾患専門医療機関」、「救急告示病院」、「地域医療支援病院」、「災害拠点病院」、「第二種感染症指定医療機関」の機能に加え、新たな機能として、開院時に「高精度放射線治療センター」を立ち上げます。

今後、徐々に疾患別センターを充実してゆく方針です。

Q. 診療科は何があるのですか。

A. 開院時の標榜診療科は23科となります。

具体的には、総合診療科、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、精神腫瘍科、小児科（重症心身障害児（者）のみ）、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科です。

渋川医療センターについて教えて

- ❗. それぞれの診療科はどのような治療を行うのですか。
また、得意な分野はどういった治療方法なのでしょうか。

A. 今まで西群馬病院と渋川総合病院で行っていた診療内容はそのまま引き継ぎますが、新たに参入した診療科や医師の体制が強化された診療科もございますので、具体的には(P14)からの「各部門の紹介」中、「診療部門」をご覧ください。
なお、各診療科の特徴については、今後順次詳細に紹介してまいります。

- ❗. 診療機能以外ではどのような機能があるのですか。

A. まず、「教育研修機能」として、平成29年度より「臨床研修指定病院（基幹型）」として初期研修医を募集することとしております。

渋川医療センターの研修プログラムの特徴としては、社会的ニーズである良医を育成するために、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけ、医師としての人格を涵養することを目的としており、29年度は全国に2名の公募を行うこととしております。

次に、「臨床研究機能」として専任の医師を配置した臨床研究部があります。国立病院機構は全国に143の病院を展開しており、その診療機能の多様性とネットワーク及びスケールメリットを活用した大規模臨床研究事業に力を注いでおります。渋川医療センターでも多施設共同研究に数多く参加し国内のエビデンス作りに貢献しています。

さらに、渋川保健医療圏に目を向けますと、「渋川地区在宅医療推進病院」や「地域医療連携推進ネットワーク推進病院」として圏域の行政機関、医療施設及び介護・福祉施設等の皆様と地域の包括的な支援・サービス提供システムの構築に向けた機能を発揮してまいります。

- ❗. 今、渋川総合病院で診ていただいているのですが、渋川医療センターで引き続き診てもらおうと初診になるのでしょうか。

A. いえ、そのようなことはありません。渋川総合病院の患者さんも西群馬病院の患者さんも初診料は掛かりません。病院の場所と名称が変わっただけと考えて下さい。

ただし、3か月以上経過した場合や他の診療科を初めて受診した場合は所定の初診料が掛かります。

❗ 澁川総合病院にかかっています。澁川医療センターの診察券がないのですが、どうしたらいいのでしょうか。

A. はい。澁川総合病院にかかっている患者さんも、西群馬病院にかかっている患者さんも今手持ちの診察券で受診できます。

澁川医療センターを受診した際に新しい診察券と交換いたします。



ご 注 意

1. 診察を受けられる時は、必ずこの券をお持ち下さい。持参されない時は受付が遅れますので御了承下さい。
2. この診察券は、再来受付機で使用しますので折り曲げたり紛失しないようにして下さい。
3. 紛失による再発行は実費をいただきますので御了承下さい。

独立行政法人 澁川医療センター
国立病院機構

〒377-0280 群馬県澁川市白井 383

TEL:0279-23-1010

FAX:0279-23-1011

❗ 紹介状がなければ外来で診てもらえないのでしょうか。

A. 他院からの紹介状がない場合でも受診できますが、その場合「初診料」の他に「初診時特別徴収金」として2,700円（税込み）の自己負担が掛かります。（500床以上の病院は、5,000円以上徴収することとされています。）

厚生労働省は、医院や診療所と大病院との医療機能の分担と連携を進めており、「地域包括ケアシステム」構築に向け「かかりつけ医機能」を強化していくこととしております。

澁川医療センターも、澁川医療圏をはじめとした医院や診療所の先生方と医療機能の分担と連携を進めることとしており、前記の「初診時特別徴収金」の自己負担をお願いしています。

なお、他の医院や診療所で紹介状を書いてもらった場合、その医院や診療所で支払う紹介状にかかる負担額は250円～750円となります。

その紹介状を持って澁川医療センターを受診した場合は、「初診時特別徴収金」の負担はありません。

渋川医療センターについて教えて

❗. 新たに整備した大型の医療機器としてはどのようなものがあるのですか。

A. はい。最新型の医療機器を導入しましたのでいくつかご紹介します。

1. リニアック

全国で2番目の稼働となる最新型の放射線治療装置を導入しました。

この機械は、病巣形状や動きに合わせて放射線強度を変えながら回転し照射するものです。

保険が適用されます。



2. MRI

北毛地域では初導入の3テスラ高磁場強度のMRIです。脳、骨、関節を中心により鮮明な画像が撮像可能になります。スペクトロスコピー、拡散強調画像での詳細な解析も可能です。

3. CT (80列)

80列の多列検出器CTです。高速に広範囲を撮影可能になります。手術前に正常構造、血管、腫瘍の3次元再構成画像を鮮明に作成することも可能です。



4. 乳房撮影装置

3D断層撮影、3D画像からの生検、画像読影支援システムなどの機能で構成された最新型の撮影装置です。

5. 血管連続撮影装置

高画質と低被曝を両立した最新型の装置です。3次元画像、横断像の撮影により画像ガイド下、経カテーテルでの治療を強かに支援する環境になります。



6. その他、X線透視撮影装置1台を新規購入して2台体制とし、X線一般撮影装置も2台新規購入しました。より低被曝で高画質の撮影が可能となります。

Q. 入院する場合個室がいいのですが、個室はいくつあるのですか。また、設備や料金体系はどうなっているのでしょうか。

A. はい。最近入院にあたって個室を希望される患者さんが増えていることから、渋川医療センターでは76室用意致しました。病棟毎の部屋数、設備及び1日当たりの料金は下記のとおりとなっています。

ご利用にあたっては、入院手続きの際、新たに組織した「患者相談支援センター」の「入退院センター」でご相談下さい。

病棟	1日料金（税込み）単位：円			
	12,960 A個室	10,800 B個室	8,640 C個室	5,400 D個室
4階東	1	5	4	2
4階西	1	3	4	2
5階東	1	3	4	2
5階西	1	2	1	0
6階東	1	3	4	2
6階西	1	3	4	2
7階	0	4	4	0
緩和ケア	0	0	12	0
合計	6	23	37	10

主な設備

- ・全ての有料個室に洗面台、エアコン、テレビ、冷蔵庫、応接セット、電動ベッド及びロッカーを備えております。
- ・A個室、B個室及びC個室にはトイレを備えております。
- ・A個室及びB個室にはユニットシャワーを備えております。



個室病床 注) 写真はA個室です。



個室病床設備の一部（トイレとユニットシャワー）注) 写真はA個室です。

Q. 渋川医療センター行のバスはあるのでしょうか。

A. はい。関越交通の乗合バスが「渋川駅～渋川医療センター」間で運行されています。

所要時間は約10分、運賃は100円です。

運行時刻表は、28頁をごらん下さい。

❗️. 車で通院することになるのですが、駐車場はどこを使えばよいのですか。

A. 西群馬病院では永い間大変なご不便をおかけいたしました。

渋川医療センターでは、患者さん用の駐車場として337台と障害者用4台を整備致しました。料金は無料でゲートも設置しておりません。

なお、車の入り口は「患者さん用」、「救急車専用」及び「職員用」の3所がありますので、ご注意ください。



❗️. 病院の中に食堂や売店はあるのですか。

A. 売店はありますが、食堂はありません。

食堂については、西群馬病院と渋川総合病院の状況を踏まえ、設置しないこととしました。

その分、売店の選定にあたっては、「企画公募型一般入札」という方法により、安定した質の良いサービスを継続的に提供できる業者を選定致しました。その結果、大手コンビニエンスチェーンが売店を展開することとなり、豊富な品ぞろえと共に、売店の中には「イートスペース」を用意しました。

場所は、1階外来ホール左奥になります。



売店（セーブオン様）

各部門の紹介

渋川医療センターを部門毎に紹介いたします。

診療部からは、各診療科の代表者に主な診療内容をお知らせ致します。



診療部門

●総合診療科

総合診療科医長 **阿久澤暢洋**

総合診療科は、読んで字のごとく、内科全般の診療を行う科です。例えば、今こんな症状があるのだけれど、どの科にかかればいいのか分からない。そんな皆様の症状や経過などをお尋ねしたうえで、必要な検査などを実施し、診断や治療を行っていきます。必要に応じて、より専門的な治療を行う必要がある場合には、当該科への紹介もさせていただきます。また、高齢の方の場合には、複数の疾患を抱えている方も少なくありません。そのような場合、どのような治療を優先して行うことが望ましいのかということに関するご相談なども承ります。患者さんの全体像をとらえたうえで、治療をご提案させていただきます。宜しく願い申し上げます。

●血液内科

内科系診療部長 **松本 守生**

私達はこれまで多発性骨髄腫や悪性リンパ腫などの血液悪性腫瘍を中心に診療してきました。これらの疾患では腎不全を合併したり、病変が消化器系臓器に及ぶことが多いため、透析ができないこと、診断・緊急手術などに対応しづらいことが、旧西群馬病院の最大の弱点でした。今回渋川医療センターとして新たなスタートを切りましたが、医師や診療科目が格段に増え、いかなる状況にも対応できる体制となりました。以前にもまして患者様に安全かつ安心していただける医療をご提供できるようになったと確信しています。またら階西病棟（血液内科病棟）には、今までもより一クラス上の無菌室を6部屋作り、自家末梢血幹細胞移植や急性骨髄性白血病などの治療もより安全に行える環境が整いました。北毛地域唯一の血液内科として、今後も地域の皆さま、ご開業の先生方のために頑張っていきたいと思っております。今後よろしくお願い致します。

●緩和ケア科

緩和ケア科医長 **小林 剛**

緩和ケアとは、がんにもなって起こるさまざまなつらさ、すなわち「からだのつらさ」「こころのつらさ」「生活のつらさ」を和らげるためのケアのことで、これらのつらさを抱えたがん患者さんとそのご家族を総合的に支える医療です。緩和ケア病棟は、がんによって生じたさまざまなつらさによりがん治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療、ホルモン療法など）が困難な患者さんや、がん治療を望まない患者さんが入院するための専門病棟です。「死ぬ場所」と思われている方が多くいますが、実は「生き抜く場所」であり、がん患者さんやご家族が心穏やかな日々を過ごせるようチームで症状緩和を含めたケアにあたっています。

●精神腫瘍科

精神腫瘍科医長 間島 竹彦

精神腫瘍科は、がんの治療で入院している患者さんのこころのケアを行う診療科です。私自身は精神科医です。病気になると患者さんはあれこれと考え、きもちのつらさを生じてきます。そのようなときによく話を聴き、きもちを支え、患者さん自身の頭ときもちの整理をお手伝いする…そういった役割を担っています。また、身体疾患で入院している患者さんの中には、単なる気持ちのつらさにとどまらず、「うつ病」や「適応障害」を併発することは稀ではなく、また、身体にさまざまな症状がある場合、その症状による身体の具合の悪さから脳の動きが乱れ、「いま、どこで、何をしているのか」といったことがおぼつかなくなる「せん妄」と呼ばれる意識障害が生じることがあります。こういった「きもちの問題」ととどまらない精神的な不調を鑑別し、対応するのが精神腫瘍医の仕事です。

この役割を基本に、「緩和ケアチーム」という多職種で構成されるチームや、精神腫瘍科外来での活動もおこなっています。この4月に統合移転する渋川医療センターでは、がんのみならず様々な身体疾患を診療する役割を担っています。看板は「精神腫瘍科」ですが、これまで以上に「非がん」の患者さんにおける精神的な問題にも取り組みたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

●呼吸器内科

呼吸器内科医長 吉井 明弘

呼吸器内科は、病院長・統括診療部長・化学療法部長をはじめ7名の体制で診療にあたっております。肺癌・肺炎・肺結核・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（肺気腫）・間質性肺炎などの呼吸器疾患全てに対応出来る体制を築いております。自覚症状や健診などで胸部に異常を指摘された場合は、速やかに画像検査や喀痰検査、必要に応じて気管支鏡検査や胸腔鏡検査などの内視鏡検査を行い、呼吸器外科医・放射線科医・病理医などと検討を行いつつ、最新の知識に基づいた最も望ましい治療法を呈示し、患者様のご意見を尊重しながら迅速に診断から治療まで携わって参ります。また日頃より看護師、薬剤師、理学療法師等と常に連携を取りながら診療にあたっております。

●消化器内科

消化器内科医長 長島 多聞

消化器内科は腹部疾患全般を扱っております。消化器外科と連携し、急性疾患から慢性疾患まで幅広く腹部の病気を診ております。がん拠点病院でもあり特にがん治療に力を入れております。胃がんに対し胃ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）治療を始め、肝細胞がんに対しB-TACE（バルーン閉塞下経カテーテル的肝動注化学塞栓療法）治療など先進的な治療・手技も行っております。2016年度より難治性腹水に対しCART（腹水濾過濃縮再静注法）も行える予定です。地域の先生と連携を取りながら、より良い医療を行えるよう努めていきたいと思っております。

●循環器内科

循環器内科 山岸 敏治

循環器内科では、高血圧・脂質異常症などの生活習慣病、不整脈・虚血性心疾患・心臓弁膜症などの心臓病、大動脈・末梢血管・下肢静脈の血管疾患などの精密検査、治療を行っております。他院で行った心臓や血管の手術後の患者様の

通院加療にも対応しております。当院では心臓のカテーテル治療や心臓・血管の手術は行っておりませんが、それらにつきましてはより高度な医療の可能な病院へ紹介しております。新病院になり、CTやMRI、核医学検査などは最新機器を揃え、負荷心電図や血圧脈波検査装置などの検査機器も充実し、より高度に精密検査が行えるようになりました。外来は毎日の診療が可能となり、患者様の利便性も向上しております。

●内分泌・代謝内科

群馬大学 松本 俊一

ホルモンは体温、血圧、血糖など体のバランスを保つのに重要な役割を果たしています。ホルモンを放出する内分泌腺は甲状腺、脳下垂体、副腎など多臓器にわたり、またその作用も代謝作用を含め、多岐にわたります。そして代謝疾患の中でも糖尿病患者数は年々増加をしてきており、合併症の進展予防のためにも早期受診、治療の継続が必要となります。

当科では、上記内分泌疾患および糖尿病をはじめとする代謝疾患に対して、より専門的な検査・治療に関しては群馬大学医学部附属病院 内分泌糖尿病内科と連携するなど、皆さまにより良い医療を提供できるよう心掛けてまいります。

●小児科 ※重症心身障害児（者）

小児科医長 石北 直之

小児科の看板を掲げておりますが、一般的な開業医では引き受け困難な患者さんを年齢問わず引き受けたいと考えております（重心患者の経鼻、胃瘻、気管カテーテル管理、人工呼吸器管理、抗てんかん薬の調節など）。時間をかけた丁寧な診察を心掛けます。

病棟では、超重心患者さんの健康管理、人工呼吸器管理が必用な患者さんの非侵襲的管理（八雲病院の石川先生の気切をしない呼吸器管理を実践出来る本州の拠点）、難治てんかん患者さんの薬剤調節（短期集中ケア）、痙攣重積の初期治療（適切なケアで慢性化を防ぎます）に重点を置いて診療して行きたいと考えております。

まだまだ勉強中の身ではありますが、精一杯頑張りますので、どうぞお願い申し上げます。

●結核

統括診療部長 渡邊 覚

当院は、1944年に日本医療団大日向荘として発足以来、群馬県の結核医療拠点病院としての役割を担ってきており、近年では群馬県内で発生した結核症例の約半数が当院で治療されています。

渋川医療センターでは、結核病棟は最上階の7階にあるため非常に見晴らしが良く、長期の入院でも快適にお過ごしいただけるよう環境を整えました。また、結核病棟全体を陰圧とし、外来も専用の陰圧待合室や診察室を設けるなど、感染対策にも配慮しております。診療科も増えたため、従来は対応困難だった合併症を有する症例の診療も可能となります。

今後も当院は地域の先生方との連携を深め、日本が結核低まん延国となることを目指して結核医療を続けてまいります。

●呼吸器外科

呼吸器外科部長 **川島 修**

呼吸器外科は主に肺を取り扱う外科です。肺には炎症を含め様々な病気がありますが、特に肺癌の外科治療を中心にを行っています。渋川医療センター呼吸器外科は、群馬県でいち早く肺癌の外科治療に着手した西群馬病院呼吸器外科をそのまま引き継ぎ、豊富な手術症例およびその臨床データを駆使した最新の肺癌外科治療を行います。胸腔鏡下手術は無論のこと、患者さん一人一人に最適な手術を提供します。

近年では、様々な肺癌治療薬が臨床の場で使われています。当院では呼吸器内科と密なる連携のもと、肺癌治療成績の更なる向上のため術後補助化学療法も積極的に行っています。是非肺癌の心配があるかた、肺癌の診断を受けたかたは当科を受診して頂ければ幸いです。

●乳腺・内分泌外科

特任院長補佐 **横江 隆夫**

乳腺・内分泌外科では乳腺や甲状腺疾患の診療を行います。

乳がんの診断、手術、術後の治療・経過観察、再発の診断・治療を2名の乳腺専門医が行っています。乳がんの性質や患者さんの状態を考慮し最も適した治療を行います。診断では、最新の3Dマンモグラフィや超音波検査が早期がん発見に威力を発揮します。微細石灰化を呈する病変の診断は、切開生検よりも侵襲の少ないマンモトームを用いて行います。最新の情報に基づいて、経験豊富な専門医が内分泌療法や化学療法（抗がん剤治療）を行います。

甲状腺疾患（バセドウ病、甲状腺機能低下症（橋本病）、甲状腺がん、甲状腺良性疾患）についても2名の専門医師が治療を行います。

受診した施設での診断・治療について、不明・疑問の点があればセカンドオピニオン外来でご相談に応じています。

●整形外科

整形外科医長 **加家壁正知**

新病院となりますが、これまでの西群馬病院での治療方針と変わりありません。西群馬病院での外来では交通の便も決して良い状態ではない中で、北毛地域の方だけでなく群馬県内外の方も多く来院して頂きました。特に手術につきましては、手・肘の外傷や感染から特殊な疾患まで、またがんによる病的骨折等も引き続き行っていく予定です。

これまで渋川総合病院で外来をされていた火曜の飯塚陽一先生と木曜の柳川天志先生には引き続き外来をしていただく予定です。しかしながら常勤医1人での診療となり、かつ救急科のない病院ですので、これまで通り救急受診にはご不便をお掛けし、困難な場合が多いことと思います。医療事故防止のためにも救急診療につきましてはマンパワーの増減に応じて、再考したいと存じます。

建物、システムと一新されますが、これまで通り整形外科の医者として診察した方の最善を模索していきたいと思っております。宜しくお願い致します。



●脳神経外科

脳神経外科医長 **合田 司**

脳神経外科（のうしんけいげか）は、頭と脳の病気や怪我を診る診療科です。

脳梗塞や脳出血などの脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍の診断と治療を中心に行っています。

脳卒中についてはその予防や再発防止についても力をいれています。突然しゃべりにくくなったり手足に力が入りにくくなったりした時は脳卒中の可能性があります。注意してください。

そのほか、頭痛、てんかん、認知症、手足の震え、手足のつっぱり、などについても診療を行っています。これらの症状でお困りの方は受診をおすすめします。

●消化器外科

消化器外科医長 **小林 光伸**

消化器外科は計6名の日本消化器外科学会消化器外科専門医で診療を行います。西群馬病院が行ってきた肝臓診療に加えて、渋川総合病院で行ってきた腹部救急疾患・消化管疾患に対する診療体制も引き継ぎます。特筆すべきは日本内視鏡外科学会技術認定医を2名有することです。現在群馬県内においても十数名しか存在しない内視鏡外科技術認定医が複数名在籍する施設は県内でも多くはありません。患者様に優しく低侵襲な腹腔鏡手術を中心とした消化器外科診療を行っていく所存でございます。また進行・再発消化器癌に対する化学療法を含めた総合的な消化器癌診療も渋川医療センターで行って参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

●皮膚科

皮膚科医長 **山中 正義**

当院皮膚科は、常勤医師1名体制で皮膚疾患全般を取り扱います。地域の中核医療施設として、群馬大学病院など他の病院、クリニックとの連携も密にして診療します。かぶれ、湿疹、蕁麻疹、水虫、いぼ、アトピー性皮膚炎、乾癬などの皮膚疾患から、粉瘤、皮膚癌などの皮膚腫瘍、糖尿病や膠原病といった全身疾患の皮膚症状まで、必要に応じて他診療科との連携も密にして診断・治療を行います。尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、尋常性白斑、痒疹などに対して適応を有する全身照射型（ダブリン7シリーズ®）およびターゲット型（ターナブ®）の2種類のナローバンドUVB照射器を導入しました。また重症アトピー性皮膚炎の患者さんの教育を含めた短期入院なども可能です。

●泌尿器科

泌尿器科部長 **田村 芳美**

泌尿器科は腎臓・膀胱・前立腺・尿道といった尿の通り道に発生する疾患を診断・治療する科です。高齢化社会に突入した昨今、泌尿器科疾患罹患率は上昇しています。特に、前立腺肥大症やがんをはじめとした排尿障害・突然の痛み発作で七転八倒する尿路結石症などでお悩みの方は少なくないと思います。渋川地区では開業の泌尿器科施設は複数ありますが、入院治療が必要な場合、ほとんどのケースは前橋・高崎の大病院へ紹介となりました。本年度の開院当初は泌尿器科医2名体制でスタートする関係上、診られる疾患に若干の制約はありますが、利根川下流に下らなくても当センターであらゆる泌尿科疾患に対応できるよう日常診療に当たらせてください。

●眼 科

眼科医長 袖山 博健

当科は常勤医師1名、非常勤医師1名で診療を行います。眼瞼などの外眼部から、角膜疾患、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患に至るまで、眼科の広範囲の分野に対応致します。当科で診断治療を行えない疾患は、群馬大学病院眼科を始めとする他の医療機関と連携し、高いレベルの医療を提供するよう心掛けます。

外来診療では、OCT（網膜光干渉断層計）を完備、抗VEGF製剤の硝子体注射（ルセンティス、アイリニア）を導入し、加齢黄斑変性症をはじめ、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症等の疾患も治療可能です。

手術は白内障手術を中心にを行います。原則入院加療となりますが、ご高齢の方、全身合併症のある方の白内障手術も各科と連携することにより、安心して行うことが出来ます。

眼科開設にあたり、質の高い医療が提供できるよう、努力していきたいと考えております。

●耳鼻咽喉科

群馬大学 耳鼻咽喉科 助教 坂倉 浩一

渋川医療センターでは、耳鼻咽喉科の外来診療を週に1回、月曜日の午後に行います。診療は群馬大学耳鼻咽喉科に所属する医師が、交替で担当いたします。

耳鼻咽喉科はその名の通り「みみ・はな・のど」だけでなく、顔や首の腫瘍やめまい、睡眠時無呼吸など、頭頸部全般を広く扱う科です。

また近年医療現場で問題となっている摂食嚥下障害（食事・飲み込みの問題）にも、積極的に取り組んでおります。高度な医療設備による、質の高い医療を目指してまいりますので、よろしくお願いたします。また入院や手術が必要と判断された患者様は、群馬大学病院をはじめとした近隣の病院へ紹介させていただきますので、ご了承下さい。

●放射線診断科

放射線診断部長 小山 佳成

このたび国立病院機構渋川医療センター発足にあたって、放射線診断を専門とする放射線診断科を開設いただけることになりました。放射線診断専門医である私、小山と守屋とで担当させていただきます。

現代医療では、CT、MRIをはじめとする高度な画像診断の重要性が増しています。20年以上前には腹部のCTを撮影すると造影剤の注射の前後で合計40コマ程度の画像を撮影するのみでした。しかし、現在は機器の進歩によって1回の撮影で数百コマに及ぶ画像が作成されることも珍しくなくなりました。

我々の任務は、これら多量の画像を読影しその解釈をA4版1枚に要約して多忙な主治医の先生に正確かつ迅速に報告することです。たくさんの患者さんを診察している主治医を文字通り「カゲ」から支え安全・安心の医療提供のお手伝いをして参ります。何卒よろしくお願い致します。

●放射線治療科

高精度放射線治療センター部長 **中村 勇司**

高精度放射線治療センターは、最先端の放射線治療法であるIMRT（強度変調放射線治療：腫瘍の形に合わせて放射線を集中する治療法）、VMAT（強度変調回転照射：IMRTを回転しながら素早く行う治療法）、SBRT（体幹部定位放射線治療：正常組織を傷めないように細い放射線を多方向から病巣に集中するため、1回に大量の放射線をかけることができる治療法）などの高精度放射線治療を行える施設です。当センターに設置された放射線治療装置は、Elekta社（スウェーデン）の最高機種「Versa HD」で、日本で2番目に設置されました。開院当初は一般の放射線治療から始めますが、順次上記の高精度放射線治療ができるように準備を進めてまいります。

●麻 酔 科

救急診療部長 **内橋 慶隆**

手術は、痛みやストレスを与えることにより、生体に様々な悪影響を及ぼします。そのような手術侵襲から生体を守ることが麻酔科医の役割です。高齢者が増え、術前からいろいろな合併症を持つ患者さんが手術を受けられることも多くなりました。患者さんの状態にあわせて適切な麻酔方法を選択し、手術中の痛みを取り除き、呼吸・循環を最適な状態に保つことが麻酔科医の仕事です。また麻酔から覚めた後傷口が痛まないようにすることが、術後の回復を早めることがわかってきております。安全で快適で痛くない麻酔をモットーに、患者さんに優しい麻酔管理を目指します。また慢性の痛みにお悩みの方に対して、疼痛外来も併せて開設しています。

●病理診断科

病理診断科医長 **岩科 雅範**

こんにちは、渋川医療センター病理診断科です。病理診断科は病理医という医師が病理診断を行う科です。病理医は患者さんの身体から採取された臓器や組織を顕微鏡で詳細に観察して病気の診断をする専門家です。日常診療で、私たち病理医が患者さんと直接お会いすることはありませんが、患者さん一人ひとりの治療には深く関わっています。それは、病理診断が病気の決定的な診断となることが多いからです。特にがんの診断と治療には病理診断が必要不可欠です。

全国的に数の少ない病理医ですが、本年4月からは自治医科大学より鈴木司先生が新しく常勤病理医として勤務し、当院各科を受診する患者さんが安心して治療を受けられる支援体制を整えております。



●化学療法部

化学療法部長 **富澤 由雄**

地域がん診療拠点病院である当院は、呼吸器・消化器・血液・乳腺・内分泌など様々な臓器のがんに対する抗がん剤治療を行っております。化学療法部はその中心的な役割を担い、がん薬物療法を専門とする医師、薬剤師、看護師で構成されております。主な業務としては、院内で行われる化学療法の審査や管理を行うことであり、安全で効果的な抗がん剤治療を行えるよう努めております。近年、化学療法は入院から外来へ移行してきておりますので、外来で快適な化学療法が受けられるよう、16の専用リクライニングチェアを設置しました。旧西群馬病院では月間約400件の化学療法を行っていましたが、旧渋川総合病院と合併し、また、泌尿器科や皮膚科など診療科も増えましたので更に充実した化学療法の運営を行います。

●臨床研究

臨床研究部長 **澤村 守夫**

臨床研究は、国立病院機構事業の3本柱、臨床と教育研修に並ぶ1つで、遂行力が求められる。

当院では肺癌、肝臓等の固形癌、血液の担当が、EBM 推進研究(尿酸基準、疾患特異的 iPS 細胞等)やエイズ、糖尿病、骨・運動器疾患、重症心身障害の分野別ネットワーク研究のみならず、厚労科研や群馬大学との研究に積極的に参加している。さらに重症心身障害、NST、抗癌剤等の独自研究も行われている。

臨床研究部は治験管理室を備え、国際共同治験、NHO 研究等を支援し、世界のトップジャーナルにその結果が掲載されて、治験遂行力が確認された。毎年、NHO144 施設毎に研究業績が点数化し評価され、高い研究モチベーションと研究業績が期待されている。



手術部門

手術部長 **柵橋 美文**

渋川医療センターの手術部門をご紹介します。4つの手術室が設置されました。眼科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、乳腺甲状腺内分泌外科、脳外科、泌尿器科、皮膚科の8つの科が手術を行います。整形外科で人工物を体内に入れる手術などの際に使用する、無菌状態に近い手術室も用意しました。傷が小さく痛みの少ない手術として期待されている内視鏡手術では、立体構造をとらえにくい欠点があります。この欠点を補う3D内視鏡も準備しました。経験豊かな麻酔科医、手術室看護師を配置しました。患者さん、ご家族が安心、納得して手術を受けていただけますよう、スタッフ一同頑張りますのでよろしくお願いいたします。

患者相談支援部門

患者相談支援センター長 **棚橋 美文**

かつては病気に罹ると、少しでも良くなるまで入院し、退院後もその病院に通院する病院完結型の医療が行われてきました。しかし最近では病気と共存しながら生活の質の維持・向上を目指し、住み慣れた地域や自宅で過ごす地域完結型医療に移行しています。そこで、当院では患者さん・ご家族が療養生活を送るうえで抱える不安や困りごとについて、専門スタッフ（看護師・ソーシャルワーカー・薬剤師・事務員等）がご相談をお受けする『患者相談支援センター』を設置しました。地域の医療機関や福祉職の方々など専門職とも連携して支援させていただきます。病気のこと、介護・福祉についてなど何かお困りのことがありましたら、まずは声をかけてください。

薬剤部門

薬剤部長 **藤本 和利**

薬剤部は、適正な医薬品や医薬品情報の供給、副作用のモニタリングなどを通して、患者さんの医薬品を用いた治療が、有効で安全に、そして安心して行えるよう日々取り組んでおります。特に注射剤を用いた「がん薬物療法」では、患者さん個人個人の体格に合わせた投与量や治療方法毎のスケジュールを確認した上で、注射薬をクリーンルーム内で無菌的に調製して供給しています。

また、各病棟には専任の病棟薬剤師を配置して、医薬品に関する情報を提供すると共に、入院患者さんが抱えるクスリに関する疑問や不安など、様々な問題にお応えする体制をとっております。

クスリに関するご質問などがございましたら、お気軽に薬剤部へご相談ください。



放射線部門

診療放射線技師長 **笠原 一**

新しい地域の基幹病院として独立行政法人国立病院機構渋川医療センターが開院します。放射線科は、放射線診断科と放射線治療科の2部門にて質の高い医療の提供を致します。放射線診断科へは、一般撮影装置2式、乳房撮影装置、CT装置2式、X線TV装置2式、血管撮影装置、MRI装置、その他移動型X線装置4式、外科用イメージと高精度な装置が更新され設置されました。

特に、MRI装置については、北毛地域に唯一の3テスラとなる装置となります。放射線診断科は、臨床上最も重要な画像情報を提供する部門となります。そのため画像診断を専門とする医師が2名で画像情報の提供に努めます。

また、放射線治療科は、全国2番目の稼働となる最先端の高精度放射線治療装置が設置され精度の高い放射線治療の提供を行うため治療を専門とする医師3名で努めます。

更に、診療放射線技師も15名となり最大限の画像情報提供に努めてさせていただきます。

検査部門

臨床検査技師長 **小関 満**

臨床検査科は、検査科長を筆頭に病理医と14名の臨床検査技師で構成されています。私たちは精度の高い検査結果を迅速に報告する事を心がけ、尿一般検査、血液検査、生化学・免疫検査、細菌検査、病理検査、生理検査、輸血検査を行っています。

また、24時間緊急検査に対応するために日当直体制を実施し、医療チームの一員として外来採血支援、感染対策チーム、栄養サポートチーム、DOTSカンファレンス等に参加し診療支援活動を行っています。

職員は、各種専門学会に所属し、各学会・団体が認定する専門資格も多く取得しています。これからも日々進化する臨床検査の知識と技術レベル向上に努め、より良い検査室となるよう努力して参ります。どうぞ宜しくお願いします。

栄養部門

栄養管理室長 **比嘉 並誠**

栄養管理室と調理室は地下1階にあり、関東信越グループ管内でも数少ないオール電化厨房として調理業務を開始します。安全性が高く、クール（暑さ知らず）・クリーン（清潔）・コントロール（温度管理が簡単）の3Cメリットで、理想的な厨房環境です。

渋川医療センターでは、クックサーブ（作りたてを盛付け配膳）を基本としてクックチル（加熱調理後の急速冷却、3～5日間のチルド保存が可能で再加熱後に盛付け配膳）や真空調理法も順次導入する予定です。病院職員の調理師によるきめ細かく対応できる体制を継続しながら、地域で生産された食材を積極的に活用し、おいしく、安全で心のかもった食事を提供します。



リハビリテーション部門

理学療法士長 **釘持 嘉彦**

リハビリテーション科は新病院2階の見晴らしの良い一角に移転いたしました。

病院機能の拡充に合わせ増員を行い、4月時点では理学療法士7名、作業療法士4名、言語聴覚士1名の12人体制となります。

当院リハビリテーション科は整形外科や呼吸器内科、外科など一般的な診療科に加え、結核、重症心身障害児(者)、緩和ケア病棟の患者さんへもリハビリを行っています。

新病院では脳外科、泌尿器科などの科が新設され、より高度で広範囲の疾患に対しての対応が要求されています。

将来的には土曜や日曜などの休みの日にリハビリサービスが提供できるよう検討をおこない、また、地域の病院、介護保険サービスとの連携も充実させながら、地域の基幹病院としての責務を果たせるよう、リハビリテーション業務を進めてまいりたいと考えます。

療育指導室部門

療育指導室長 **阿部 和俊**

療育指導室とは、心身に重い障害を持つ重症心身障害児（者）の方々やそのご家族に福祉の立場から支援する部門です。児童指導員2名と保育士5名が療育活動や福祉に関する相談を通して利用者様やご家族の皆様と日々関わらせていただいています。

療育活動では、楽しく遊びながらたくさん身体を動かす「ムーブメント療法」、匂いや音楽、色々な光の空間を楽しみリラックスしていただく「スヌーズレン」、「音楽療法」を取り入れながら、発達や機能の維持を図ると同時に潤いのある充実した生活が送れるよう支援しています。

また面会、季節行事や戸外活動への参加、面談の際のご家族との対話も大切にしています。

ボランティア受け入れ、保育実習生の受け入れにも取り組んでいます。

看護部門

看護部長 **水江 麻紀子**

看護部は、西群馬病院と渋川総合病院との合併により定員を大きく超える人数でスタートすることができました。それぞれの病院の機能を活かしつつ、看護師一人一人がより質の高い看護実践を目指して参ります。

また、現在、専門看護師（がん）・認定看護師（感染、皮膚・排泄ケア、がん化学療法、がん性疼痛、緩和ケア）が活動しています。さらに、認知症や慢性呼吸器ケアなど幅広い分野の認定看護師育成に取り組んでいます。まだまだ微力ではありますが、専門性を発揮することで地域の皆様のお力になることができよう活動を広めていきたいと考えています。

これからもご支援ご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。



事務部門

事務部長 **宮崎 健司**

病院は、医師、看護師、薬剤師など多くの国家資格を持つ医療スペシャリストたちによって構成されており、各部門が患者さんを中心に医療チームを構成し、有機的に連携して医療を提供しております。

私たち事務部門は、患者さんに直接医療を提供することはありませんが、渋川医療センターが北毛地域の基幹病院として良質な医療を継続的に提供出来るよう、地域の医療需要を見据えた病院の将来構想立案や健全な経営と適正な運営の役割を、柔軟な発想をもって提案しつづけます。

引き続き、国立病院機構の一員としての機能を果たし、また、地域の医療機関と連携し地域医療に貢献するため、今後も努力して参りますので、これからもご指導方宜しくお願い致します。

渋川医療センターの利用方法について

1. 外来について

受付時間

月曜日～金曜日

- 初診受付：8：30～11：00
12：30～15：00
- 再来受付：再来受付機により、8：00～
- 診療開始は、8：30～となっております。



ご来院の際に必要なもの

- ①健康保険証
- ②公費受給者証
- ③他の医療機関からの紹介状
- ④診察券



※西群馬病院と渋川総合病院の診察券をお持ちの方はご持参下さい。新しい診療券と交換致します。
※②～④はある方のみご持参下さい

休診日

土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

※救急を除く

2. 面会について

月曜日～金曜日

- 13時00分～19時00分

土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

- 10時00分～19時00分

※小学生以下の病棟内での面会はお断りしています。

※インフルエンザ等感染症が流行している時季は、面会を制限する場合がございます。



3. 患者相談支援センターについて

渋川医療センターでは患者さんの入院前から退院後までを一貫して支援するため、新たに「患者相談支援センター」を立ち上げ、入院・退院関連部門、地域連携関係部門及び医療福祉関係部門を集約しました。

1) 入退院センター

ここでは、

- 入院時における患者さんやご家族へのオリエンテーションや退院時の支援を行います。
- 患者さんやご家族から入院歴や病歴を伺って患者さんの持っているリスクの確認を行います。
- 各病棟と調整してベットコントロールを行います。



入退院センター

2) 地域医療連携室

ここでは、

- 他院からの診療紹介や渋川医療センターからの紹介、文書のやりとり及び医療機器の共同利用の予約等を行います。
- 他院の訪問、連携協力医大会及び出前講座などの企画運営等を行います。
- その他、地域連携に関する業務を行います。

3) 医療福祉相談室

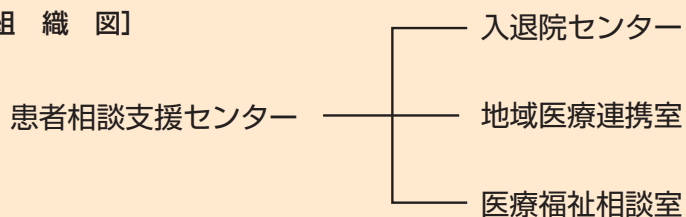
ここでは、

- 療養に関わる社会的問題への早期介入や退院支援の業務を行います。
- がん相談支援センターとして機能、がんサロン及び患者サポート体制を構築して参ります。
- 地域のネットワーク活動を推進して参ります。



患者相談支援センター

【組織図】



4. 交通のご案内

1) 自動車ご利用の場合

- 高崎、前橋方面より

関越自動車道「渋川・伊香保IC」より国道17号バイパス（鯉沢バイパス）を「南魚沼・沼田」方面に向かい約5分。「ケーズ電気」様斜向かい。

- 利根・沼田方面より

沼田市街地より国道17号線を「東京」方面に向かい約25分。「道の駅こもち」を過ぎて左側。

- 中之条・原町方面より

中之条市街地より国道353号線を「東京」方面に向かい約25分、国道17号バイパスを右折して2分。「道の駅こもち」を過ぎて左側。



2) 交通機関ご利用の場合

JR上越線、JR吾妻線で「渋川駅」にて下車し、

- 「渋川医療センター行き」バス（5番乗り場）乗車、約10分。100円
- タクシー利用の場合約5分。

乗合バス 運行時刻表 渋川駅 ⇄ 渋川医療センター

平成28年4月1日より運行

運賃：大人100円【小児半額】

渋川医療センター 行

平日	渋川駅	8:05	9:45	10:35	11:30	12:05	13:45	14:35	15:45	16:15	18:30
	渋川新町	8:07	9:47	10:37	11:32	12:07	13:47	14:37	15:47	16:17	18:32
	渋川郵便局西	8:08	9:48	10:38	11:33	12:08	13:48	14:38	15:48	16:18	18:33
	寄居町会館前	8:08	9:48	10:38	11:33	12:08	13:48	14:38	15:48	16:18	18:33
	東町	8:10	9:50	10:40	11:35	12:10	13:50	14:40	15:50	16:20	18:35
	白井	8:12	9:52	10:42	11:37	12:12	13:52	14:42	15:52	16:22	18:37
	渋川医療センター	8:15	9:55	10:45	11:40	12:15	13:55	14:45	15:55	16:25	18:40

渋川駅 行

平日	渋川医療センター	8:25	10:00	10:50	11:50	12:25	14:05	14:50	16:05	16:35	18:45
	白井	8:26	10:01	10:51	11:51	12:26	14:06	14:51	16:06	16:36	18:46
	東町	8:28	10:03	10:53	11:53	12:28	14:08	14:53	16:08	16:38	18:48
	寄居町会館前	8:30	10:05	10:55	11:55	12:30	14:10	14:55	16:10	16:40	18:50
	渋川郵便局西	8:31	10:06	10:56	11:56	12:31	14:11	14:56	16:11	16:41	18:51
	渋川新町	8:32	10:07	10:57	11:57	12:32	14:12	14:57	16:12	16:42	18:52
	渋川駅	8:35	10:10	11:00	12:00	12:35	14:15	15:00	16:15	16:45	18:55

渋川医療センター 行

土・日・祝 12:30~13:30	渋川駅	10:10	11:15	12:05	14:35	16:35	18:30
	渋川新町	10:12	11:17	12:07	14:37	16:37	18:32
	渋川郵便局西	10:13	11:18	12:08	14:38	16:38	18:33
	寄居町会館前	10:13	11:18	12:08	14:38	16:38	18:33
	東町	10:15	11:20	12:10	14:40	16:40	18:35
	白井	10:17	11:22	12:12	14:42	16:42	18:37
	渋川医療センター	10:20	11:25	12:15	14:45	16:45	18:40

渋川駅 行

土・日・祝 12:30~13:30	渋川医療センター	10:30	11:35	12:25	14:50	16:50	18:45
	白井	10:31	11:36	12:26	14:51	16:51	18:46
	東町	10:33	11:38	12:28	14:53	16:53	18:48
	寄居町会館前	10:35	11:40	12:30	14:55	16:55	18:50
	渋川郵便局西	10:36	11:41	12:31	14:56	16:56	18:51
	渋川新町	10:37	11:42	12:32	14:57	16:57	18:52
	渋川駅	10:40	11:45	12:35	15:00	17:00	18:55



※ 乗合バスについてのお問い合わせは、関越交通(株)渋川営業所 TEL0279-24-5115 または、渋川市市民生活課 TEL0279-22-2463 まで



独立行政法人 国立病院機構

渋川医療センター

TEL 0279-23-1010 FAX 0279-23-1011
〒377-0280 群馬県渋川市白井383番地



渋川医療センター外来診療担当医表

	時間帯	月	火	水	木	金
総合診療内科	午前	アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋	アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋
	午後	アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋		アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋		アクザワ ノブヒロ 阿久澤 暢洋
呼吸器内科 1	午前	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	イジマ ヒロノブ 飯島 浩宣	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	トミザワ ヨシオ 富澤 由雄	クワコ トモヒト 桑子 智人
	午後					
呼吸器内科 2	午前	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	オチアイ マイ 落合 麻衣	ツチヤ ユキコ 土屋 友規子	サクライ レイコ 櫻井 麗子	ワタナベ サトル 渡邊 覚
	午後					
呼吸器内科 3	午前	オオサキ タカシ 大崎 隆	オザワ ユリ 小澤 友里			
	午後					
循環器内科	午前	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治	イワサキ トシヤ ※岩崎 俊弥 (北関東循環器)	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治		ヤマギシ トシハル 山岸 敏治
	午後				※熊倉又は高山 (北関東循環器)	
内分泌・代謝内科	午前	タガヤ ユウコ 多賀谷 裕子 (内分泌・代謝内科)			カワシマ チエコ 川島 智恵子 (内科)	マツモト シュンイチ 松本 俊一 (内分泌・代謝内科)
内科	午後					
小児科	午前		イシキタ ナオユキ 石北 直之(重心)	イシキタ ナオユキ 石北 直之(重心)	イシキタ ナオユキ 石北 直之(重心)	
	午後			シミズ ノブゾウ 清水 信三(重心)		
血液内科 1	午前	イシカワ テツヤ 石川 哲也	イソダ アツシ 磯田 淳(予約)	マツモト モリオ 松本 守生	マツモト モリオ 松本 守生	医師交代制
	午後		オガワ ヨシユキ 小川 孔幸(第2)			
血液内科 2	午前	イソダ アツシ 磯田 淳	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	イソダ アツシ 磯田 淳	
	午後					
血液内科 3	午前		サワムラ モリオ 澤村 守夫		ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里(予約)	
	午後	マツモト モリオ 松本 守生				
消化器内科 1	午前	ナガシマ ヨシミ 中島 良実(群大)	ナガシマ タモン 長島 多間	ヤマザキ ユウイチ 山崎 勇一(群大)	アライ ヨウスケ 新井 洋佑	フルヤ ケンスケ 古谷 健介
	午後					
消化器内科 2	午前				カキザキ トオル 柿崎 暁(第2・4)	
	午後					
緩和ケア科	午前					
	午後	コバヤシ ゴウ 小林 剛		コヤ ヒロコ 小屋 紘子	コヤ ヒロコ 小屋 紘子	コバヤシ ゴウ 小林 剛
精神腫瘍科	午前					
	午後	マシマ タケヒコ 間島 竹彦			マシマ タケヒコ 間島 竹彦	
結核(感染症)	午前					
	午後					

外来受付時間

- 午前受付 8時30分～11時00分
- 午後受付 12時30分～15時00分

※(予約)と記載がある場合は、予約患者さんのみの診療となります。

※小児科は、重症心身障害児(者)のみの予約診療となります。

※耳鼻咽喉科は、坂倉浩一先生(第1・2・4・5月曜日午後) 近松一郎先生(第3月曜日午後)

	時間帯	月	火	水	木	金
外科 1 (消化器)	午前	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	ヨシナリ ダイスケ 吉成 大介	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	タナハシ ヨシフミ 棚橋 義文
	午後					
外科 2 (呼吸器・消化器)	午前	アツミ ジュン 渥実 潤	ナカジマ ジュン 中嶋 潤	カワシマ オサム 川島 修	クラバヤシ マコト 倉林 誠	カワシマ オサム 川島 修
	午後					
脳神経外科	午前	ゴウダ ツカサ 合田 司	ゴウダ ツカサ 合田 司	ゴウダ ツカサ 合田 司	ゴウダ ツカサ 合田 司	ゴウダ ツカサ 合田 司
	午後					
整形外科 1	午前	カヤカベ マサトモ 加家壁 正知	カヤカベ マサトモ 加家壁 正知		カヤカベ マサトモ 加家壁 正知	
	午後					カヤカベ マサトモ 加家壁 正知
整形外科 2	午前		イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一(群大)		ヤナガワ タカシ 柳川 天志(群大)	
	午後		イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一(群大)		ヤナガワ タカシ 柳川 天志(群大)	ワタナベ ヒデオミ 渡邊 秀臣(第1金)
泌尿器科 1	午前	カトウ ハルオ 加藤 春雄	カトウ ハルオ 加藤 春雄	タムラ ヨシミ 田村 芳美	カトウ ハルオ 加藤 春雄	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午後					
泌尿器科 2	午前	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	岡部(第1・3・5) 加藤(第2・4)	タムラ ヨシミ 田村 芳美	カトウ ハルオ 加藤 春雄
	午後	タムラ ヨシミ 田村 芳美(予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美(予約)		カトウ ハルオ 加藤 春雄(予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美(予約)
耳鼻咽喉科	午前					
	午後	※板倉又は近松(群大)				
皮膚科	午前	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義	ヤマナカ マサヨシ 山中 正義
	午後					
皮膚科	午前		サイトウ シンタロウ 斎藤 晋太郎 月2回(群大)			
	午後					
甲状腺科	午前	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後			ヨコタ トオル 横田 徹(予約)		
乳腺科	午前	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫		ヨコタ トオル 横田 徹
	午後		ヨコタ トオル 横田 徹(予約)			ヨコタ トオル 横田 徹(予約)
眼科	午前	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健
	午後	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)	ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)		ソテヤマ ヒロタケ 袖山 博健(予約)
眼科	午前				スズキ コウタ 鈴木 康太	
	午後					
麻酔科	午前		ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆			ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆
	午後					

※循環器内科は、岩崎俊弥先生(北関東循環器病院)(第2・4火曜日午前)、熊倉久夫先生(第1・3・5木曜日午後)、
高山嘉朗先生(北関東循環器病院)(第2・4木曜日午後)

※担当医が変更になる場合もございますので、事前に電話でご確認ください。



編 集 後 記

早いもので新病院の着工から2年が経過し、ここに北毛地域の基幹病院「渋川医療センター」が開院しました。工事着工に至るまでも様々な困難がありましたが、渋川地区医師会、渋川市を始めとした様々な組織の方々のお力添えの賜と感謝申し上げます。

3月12日の内覧会には約5,500人もの方々が足を運んで下さいました。我々職員一同、皆様の「渋川医療センター」に対するご期待の表れと受け止め、誠心誠意努力して参りますので、宜しくお願い致します。(マルコメK)



独立行政法人 **国立病院機構 渋川医療センター**

〒377-0280 群馬県渋川市白井383番地 TEL **0279-23-1010** (代) FAX **0279-23-1011**

<http://www.hosp.go.jp/~shibukawamc>